

マルコの福音書2:18-22 断食をすべきか否か

イエスのミニストリーは教えや奇跡に特徴づけられたものでしたが、別の見方をすれば対立に特徴づけられたものでもありました。今日のマルコの福音書2:18-22でも、宗教指導者たちとの一つの対立が描かれています。マルコの福音書2章から3:6にかけて、イエスは宗教指導者たち、主にパリサイ派と呼ばれる人たちと対立しています。この箇所は実際、パリサイ派の人々がイエスをどのように葬り去ろうかと相談するところで終わります。この章には5つの対立点がありますが、今日の箇所にはその3つ目の点について記されています。では、聖書箇所を読み、何について対立しているのかを見ていきたいと思います。マルコの福音書2:18-22「さて、ヨハネの弟子たちとパリサイ人たちは、断食をしていた。そこで、人々はイエスのもとに来て言った。「ヨハネの弟子たちやパリサイ人の弟子たちは断食をしているのに、なぜあなたの弟子たちは断食をしないのですか。」 19 イエスは彼らに言われた。「花婿に付き添う友人たちは、花婿が一緒にいる間、断食できるでしょうか。花婿と一緒にいる間は、断食できないのです。 20 しかし、彼らから花婿が取り去られる日が来ます。その日には断食をします。 21 だれも、真新しい布切れで古い衣に継ぎを当てたりはしません。そんなことをすれば、継ぎ切れが衣を、新しいものが古いものを引き裂き、破れはもっとひどくなります。 22 まただれも、新しいぶどう酒を古い皮袋に入れたりはしません。そんなことをすれば、ぶどう酒は皮袋を裂き、ぶどう酒も皮袋もだめになります。新しいぶどう酒は新しい皮袋に入れるものです。」」

ここで問われているのは断食についてです。洗礼者ヨハネの弟子たちとパリサイ人が定期的に行っていた断食の最中に問われた質問でした。ここで断食をする時期については多くが語られていませんが、誰が断食するのかについてののみが語られています。ヨハネの弟子たちについて、私たちは多くを知りません。聖書以外の記録はほとんどないものの、私たちは聖書の記述から、洗礼者ヨハネとその教えに従う弟子たちがいたことを知っています。もちろんヨハネ自身は神の子であるイエスをメシアとして人々に指し示していましたが、弟子たちの中にはヨハネの霊的訓練の仕方を見習う者たちがいました。ヨハネについて私たちが知っていることと、悔い改めと信仰を説くことに彼が献身していたことを考えれば、断食という精神的な鍛錬を定期的に行っていたであろうと思われます。パリサイ人らはヨハネの弟子たちとは違います。彼らはイエスをメシアとして決して受け入れることはなく、聖書からも聖書以外の記録からも、彼らについて多くのことを知ることができます。キリストの時代、イスラエルの社会的、宗教的な日常において数多くの派閥が存在しました。パリサイ派もその一つでした。他には、超自然的な物事を受け入れないサドカイ派もありました。ヘロデ派はローマが任命した統治者ヘロデを支持する、基本的には政治的な派閥でした。また、ある意味ローマに反旗を翻し、イスラエルでのローマ支配を終わらせようとする熱心党と呼ばれるグループもありました。イエスの時代には約6000人のパリサイ人がいましたが、宗教的解釈と実践において彼らの権威はユダヤ人社会のほとんどが認めるものでした。旧約聖書の律法について、彼らの解釈は正しいとされていました。もちろん、イエスは地上でのミニストリーにおいて、そうした解釈のいくつかに真っ向から対立しました。パリサイ人達は旧約聖書の律法であるトーラーに書かれている命令に、何世紀にもわたってユダヤ教のラビの教えを付け加え、それらが実際に律法を守り信仰の厚い人物となるための一部となっていました。ですから、信心につながるといわれていたこれらの定めを守り、それに従うことこそがパリサイ人にとって神との関係を築くこととなっていたのです。断食を例に挙げますと、モーゼの律法には断食に関する定めは一つしかありません。レビ記23:27に「特にこの第七の月の十日は宥めの日であり、あなたがたのために聖なる会合を開く。あなたがたは自らを戒め、食物のささげ物を主に献げなければならない。」とあります。年に1日だけ、現代ヘブライ語でヨム・キプルと呼ばれる宥めの日には自らを戒めることは断食することを意味しています。これが旧約聖書の律法の中で神が実際に断食をするように直接的に命じている唯一の命令で、年に1日だけのものです。パリサイ人はその教えを、真に敬虔な人となるためには週に2回断食を行うべきであるという教えに変えてしまいました。もちろんすべての人がそうしていたわけではないでしょうが、そのような断食や一年を通して他に定められたすべての定めを守ることが敬虔であることの証と考

えられていたことでしょう。そうした背景があって、弟子たちがこうした断食をしないことについてイエスは質問を受けたのです。

イエスの答えはとても意義深いものでした。結婚式のイメージを用いて、ご自身を花婿に例えておられます。19節にイエスの答えがあります。「**花婿に付き添う友人たちは、花婿と一緒にいる間、断食できるでしょうか。花婿と一緒にいる間は、断食できないのです。**」結婚式は、特にこの時代には喜ばしいものでした。通常の結婚でも新婚夫婦を祝って1週間、未亡人が再婚した場合であっても3日間はパーティーが続きました。結婚式は食べることをやめるときではなく、飲食の喜びに浸るときであったのです。イエスがこのような例えを用いたことは特に意義深いことです。旧約聖書では、神はしばしばご自分を、イスラエルという花嫁を迎えにくる花婿として描かれました。その例をいくつか見てみましょう。イザヤ書62:5「若い男が若い女の夫となるように、あなたの息子たちはあなたの夫となる。花婿が花嫁を喜ぶように、あなたの神はあなたを喜ぶ。」エゼキエル書16:8「わたしがそばを通りかかってあなたを見ると、ちょうど、あなたは恋をする年ごろになっていた。わたしは衣の裾をあなたの上に広げ、あなたの裸をおおった。わたしはあなたに誓って、あなたと契りを結んだ——神である主のことば——。そして、あなたはわたしのものとなった。」ホセア書2:19-20「わたしは永遠に、あなたと契りを結ぶ。義とさばきと、恵みとあわれみをもって、あなたと契りを結ぶ。20 真実をもって、あなたと契りを結ぶ。このとき、あなたは主を知る。」これらから分かることは、イエスが花婿の例えを用いて、自分こそがその花婿だと示すことはキリスト論的だということです。つまり、花婿としての神という姿が神のキリストすなわちメシアとしての自分に当てはまるということを宣言しているわけです。メシアとして、イエス・キリストとして神と自分を等しくしています。神よりも劣った存在でも、周りの人々と同じような人間でもなく、イスラエルの人々が何世紀にも渡って探し求めていた花婿でした。彼らのメシアであり神であったのです。メシアとして、神に遣わされた贖い主として、律法とそれが求めるものをすべて成就する存在でした。ですから**マタイの福音書5:17**でイエスは「**わたしが律法や預言者を廃棄するために来た、と思っはなりません。廃棄するためではなく成就するために来たのです。**」と言っておられるのです。では、なぜイエスに従う者たちは断食しないのでしょうか。それはインマヌエル、神が私たちとともにおられるからです。地上におられるのです。イエスのうちに律法が成就されるので、罪を贖ってくださる方がおられなかったから旧約聖書に存在していた断食の必要性がなくなったのです。

もしそこでイエスが止めておられたなら、今日のクリスチャンにとって断食をするかどうかという疑問は完全に解決されていました。ですが、イエスはそこでとどまりませんでした。**20節で、イエスは婚宴の例えについて「彼らから花婿が取り去られる日が来ます。その日には断食をします。」**と言っておられます。イエスは、ご自分の最初の来臨が永続的なものではなく、この時点で立て上げられる王国は物理的なものではなく、霊的なものであるという事実を示しておられたのです。このことを、イエスが復活されるまでの3日間弟子たちが断食をすることになるという意味に解釈する人もいますが、復活の後、イエスが天に帰られ、物理的に地上を去られるというより広い意味合いがあるように思えます。使徒の働きには、初代教会で断食が実践されていたことが記されています。ですから、イエスはご自分が墓におられた3日間だけを意味されていたのではないはずで、**使徒の働き13:2**には「**彼らが主を礼拝し、断食していると、聖霊が「さあ、わたしのためにバルナバとサウロを聖別して、わたしが召した働きに就かせなさい」と言われた。**」とあります。もしキリストにおいて律法が成就し、メシアと罪の贖いを待ち望むために断食をすることが不要となったのに、イエスがご自分に従う者らがいつか断食をする時が来るといわれたとすれば、これをどのように説明することができるのでしょうか。それは、イエスがこの個所の最後で示された、布切れとぶどう酒の革袋の例えから説明することができます。

21節では、古い衣を繕うために縮んでいない新しい布を当ててはいけなうと言っています。それは、洗濯するとき布が縮むことで繕った布が引っ張られ、さらに大きな穴が開いてしまうからです。22節ではぶどう酒と革袋の例えを用いています。古い革袋について話しています。それは

革製のバッグのようなもので、ワインを保管したり持ち歩くために使われました。問題は、一度空っぽになり長い間使われずに乾燥してしまうと、硬くもろくなって再び使うことができなくなってしまったことでした。最初は革も柔らかくワインを満たしても柔軟性がありますが、古いひび割れた革袋ですと、ワインを入れて袋の側面が押し広げられる力が働くとストレッチが効かずにひび割れてしまいます。ワインを無駄にしてしまうことになります。イエスは断食についての質問に、ご自分は新しい布や新しいワインのようなものだと言っておられるのです。新しいものは、ただ古いものに付け加えたり、古いものに押し込めたりすることはできません。イエスは断食を必要とする律法を成就することで、まったく新しいものをこの世にもたらされたのです。

問われているのは断食についてだけではありませんが、クリスチャンとしてそれを取り上げないわけにはいきません。私たちは断食すべきでしょうか。新約聖書で命じられているわけではありませんが、イエスはご自分が地上を去られた後、様々な場面において私たちは断食できるし、断食すべきであると示しておられるようにみえます。けれど、私たちの断食は、律法主義的な基準を掲げていたパリサイ人には決して理解できなかった違いがあるはずで、ジョン・パイパーは断食についての著書「A hunger for God (神に飢える)」の中で次のように述べています。

「今日の私たちの救いを決定づける中心となる決定的行為は、未来ではなく過去にある。花婿の過去の業ゆえに、何一つ以前と同じではありえない。子羊は屠られ、血は流された。私たちの罪に対する罰は下されたのだ。死は打ち破られ、御霊が遣わされた。ワインは新しく。そして断食に関する古い考えは単に適切ではなくなった。」ですが、イエスが来臨されすべてのものが新しくなったという霊的な現実がある一方で、それがすでに起こったことだという緊張感をもって生きてはいるものの、この墮落した世においてそれを完全に体験しているわけではないということを私たちは知っています。私たちは以前にも触れた「既に起こっているけれど、まだ完全ではない」という現実の中に生きています。だから断食をするのです。マルコの福音書でキリストに従う者たちがイエスとともに歩んだように、花婿の臨在を実際に体験したいと切に願うからなのです。パリサイ人達が思っていたように、断食によって神の好意を得られるわけでないことを私たちは知っています。キリストのうちに私たちの救いが完全なことも知っています。ですが、新しいワインであるイエスが、革袋としての私たちを満たしてくださり、イエスをもっと体験したいと願っているのです。再びパイパーはこう言っています。「信仰の行為として、クリスチャンが断食をするのは、全能のキリストに対する不満足な満足の表現である。それは、キリストの全能の豊かさに対する平安と喜びの表現だ…それは福音の中で豊かに与えられている神を味わうことによって目覚めた、神に対する飢えである。」ですから、クリスチャンとして、食べ物など良いものを、それよりも良い神のために犠牲にしたいと願う心から断食すべきです。

けれどここでは、パリサイ人には見えなかった更に大きなことが問われています。その問いとは、福音を聞いた人々が、自分たちや社会が作り上げたルールや自分たちの宗教的理解を手放して、花婿とともに結婚の祝いの場に加わるかどうかということです。自分という人間と自分が持っているものに、単にイエスを付け加えるということではできません。古い衣服や革袋のままではいられないのです。イエス・キリストによって新しくされ、変えられなくてはならないのです。コリント人への手紙第二5:17には「ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」とあります。キリスト・イエスのうちに新しく造られたものとして、ワインの発酵が進んで膨らむように、神は私たちを聖霊によって満たしてください。それは、キリストの花嫁である教会の一部として、私たちを神が望まれる花嫁とするためです。

パリサイ人のように神に自分をアピールするために何かをしようとしている方もおられるのではないかと思います。道徳的な生活を送ろうと努力されています。計画的に宗教的な訓練にさえ励んでおられるかもしれません。イエスを求めている、すでにある自分という存在にイエスを加えたいと望んでおられるかもしれません。問題は、私たちが罪人であり、どのような行いによっても神に栄光を帰することが全くできないということです。それがパリサイ人の問題でした。彼

らはその行いゆえに自分たちは信仰深く、正しい人間で、罪人ではないと思っていました。ですが、それは事実からかけ離れていました。私たちは皆、新しく造られる必要があります。真にキリストを受け入れ、キリストに従うためには再生されなければなりません。新しい布、新しい革袋となる必要があるのです。そのためには罪を悔い改め、イエス・キリストの憐みに身を委ね、十字架での死ゆえにキリストのみが罪を贖い、赦しを与えてくださることができることを信じることしかありません。それが主の晩餐を守る理由です。晩餐に与るたびに、私たちは自分が何者であるかを覚えます。私たちは自分の罪の罰として死に値する罪人であるにも関わらず、キリストは私たちのために死んでくださいました。私たちがイエス・キリストのうちに新しくされるために、その体が砕かれ、血が流されたのです。ご自分の罪を悔い改め、イエス・キリストを主であり救い主として受け入れ、バプテスマを受けられた方は、どうぞ聖餐式にともに与ってください。まだイエスを受け入れておられない方、バプテスマを受けておられない方は参加をご遠慮いただければと思います。お子様がおられる方々は、この晩餐の重要性をお子様にお教えいただき、準備ができていないお子様が晩餐に与ることをご遠慮ください。私が祈った後、執事が礼拝堂の四隅でパンとジュースをお配りします。私たちの主イエス・キリストの犠牲を覚えつつ、共に主の晩餐に与りましょう。祈りましょう。

Mark 2:18-22 To Fast or not to Fast

In some ways Jesus's ministry was characterized by conflict as much as it was teaching and miracles. Today in our passage in Mark, Mark 2:18-22, we see another point of conflict with the religious leaders. Now, in Mark 2 going all the way through Mark 3:6, we see Jesus having conflicts with the religious leaders, primarily the group known as the Pharisees. This section will actually end with the Pharisees looking for a way to kill Jesus. There are 5 separate points of conflict in this chapter, and this is the 3rd of those. So, let's read this passage and see what the conflict is over. **Mark 2:18 -22 Now John's disciples and the Pharisees were fasting. And people came and said to him, "Why do John's disciples and the disciples of the Pharisees fast, but your disciples do not fast?"** 19 And Jesus said to them, "Can the wedding guests fast while the bridegroom is with them? As long as they have the bridegroom with them, they cannot fast. 20 The days will come when the bridegroom is taken away from them, and then they will fast in that day. 21 No one sews a piece of unshrunk cloth on an old garment. If he does, the patch tears away from it, the new from the old, and a worse tear is made. 22 And no one puts new wine into old wineskins. If he does, the wine will burst the skins—and the wine is destroyed, and so are the skins. But new wine is for fresh wineskins."

The question that is raised here is about fasting. It was asked during a regular time of fasting that was being observed by the followers of John the Baptist and by the Pharisees. This does not tell us a lot about the timing of this fasting, but only who is involved. We do not know a lot about the disciples of John. We do know from the Bible, but very few extra-Biblical records, that there was a group of disciples who followed John the Baptist and his teachings. Of course, John himself pointed people to Jesus as the Son of God and Messiah, but he had a group of followers who followed his patterns of spiritual disciplines. Given what we know about him and his dedication to his message of Repentance and Faith, it would make sense that there would be the spiritual discipline of fasting built into their daily weekly and monthly schedules. The Pharisees are different from the disciples of John. They never accepted Jesus as Messiah, and we know a lot about them not only from the Bible, but also from extra-Biblical sources. There were numerous sects active in the social and religious life of Israel at the time of Christ. The Pharisees were one of them. Others were the Sadducees who did not accept supernatural events. The Herodians, who were basically a political sect that supported Herod the Rome appointed ruler. There was also the Zealots who were in some ways a rebel sect waging a war against Rome and wanted to see Roman rule overthrown in Israel.

The Pharisees numbered about 6000 during the time of Jesus, but their authority on issues of interpretation and practice of religion were respected by most of Jewish society. How they interpreted the Old Testament law was considered to be right. Of course Jesus directly confronted some of those interpretations during his earthly ministry. The Pharisees had added many centuries of Jewish Rabbinical teaching to the actual commands in the Torah, the Old Testament Law, which had become part of how to actually keep the commandments and be a Godly person. So, these practices that they said would lead to godliness, and the formal process of keeping and following them had become the definition of a relationship with God to the Pharisees. So, in the example of fasting, the Mosaic Law, the Torah, only has one command to fast. **Leviticus 23:27** says, 27 "Now on the tenth day of this seventh month is the Day of Atonement. It shall be for you a time of holy convocation, and you shall afflict yourselves and present a food

[offering to the Lord](#). Afflicting yourself on the one day per year, Day of Atonement, called Yom Kippur in modern Hebrew, means to fast. That is the only command given directly by God in the Old Testament law to actually fast, and it is one day per year. The Pharisees had transformed that teaching into teaching that fasting should be done two days per week in order to truly be a pious person. Of course, not every person did this, but it would have been considered the mark of piety to keep these fasts and all the other ones designated throughout the year. It is with this background that Jesus is questioned about his disciples not participating in these fast days.

Jesus's answer is very significant. He uses the imagery of a wedding, and is pointing to himself as the bridegroom. Verse 19 gives us Jesus's answer. **"Can the wedding guests fast while the bridegroom is with them? As long as they have the bridegroom with them, they cannot fast.** A wedding is a joyful occasion, especially in that time. For a regular marriage, it was a week of partying and feasting in honor of the newly married couple, and for a remarried widow, it was 3 days of the same party and feasting. The wedding was not a time to stop eating, but to indulge in the pleasure of food and drink. This is especially significant for Jesus to use this example. In the Old Testament, God often pictured himself as the bridegroom coming for Israel, His bride. Here are just a few examples of this. [Isaiah 62:5](#) says, **For as a young man marries a young woman, so shall your sons marry you, and as the bridegroom rejoices over the bride, so shall your God rejoice over you.** [Ezekiel 16:8](#) **"When I passed by you again and saw you, behold, you were at the age for love, and I spread the corner of my garment over you and covered your nakedness; I made my vow to you and entered into a covenant with you, declares the Lord God, and you became mine. And another, [Hosea 2:19-20](#) ¹⁹ And I will betroth you to me forever. I will betroth you to me in righteousness and in justice, in steadfast love and in mercy. ²⁰ I will betroth you to me in faithfulness. And you shall know the Lord.** What this shows us is that by Jesus using this bridegroom image and implying that he is the groom, it is Christological in nature. In other words, he is declaring that the picture of God as a bridegroom applies to himself as God's Christ, or Messiah. As the Messiah, Jesus Christ, he was equating himself with God. He was not some lesser being than God nor was he the same type of human as everyone around him, but he was the bridegroom that the people of Israel had been looking for for centuries. He was their Messiah and he was their God. As the Messiah, the Redeemer sent by God, he was the fulfillment of everything the law, and the requirements of that law were pointing to. So, in [Matthew 5:17](#), Jesus says, **17 "Do not think that I have come to abolish the Law or the Prophets; I have not come to abolish them but to fulfill them.** So, why are the followers of Jesus not fasting? Because Immanuel, God with us is here! He is on the earth. The law is fulfilled in him, and the need for fasting that existed in the Old Testament due to the absence of a Redeemer who could atone for sin is over!

Now, if Jesus had stopped there, then the question for Christians today of whether we fast would be answered completely. But that is not what he did. No, in verse 20, he clarified his remarks on the wedding feast by saying, **20 The days will come when the bridegroom is taken away from them, and then they will fast in that day.** Jesus was pointing to the fact that his first coming was not a permanent return to this earth, and that the kingdom he came to establish was spiritual and not at that point physical. Some have interpreted this to mean the three days Jesus was in the tomb before his resurrection the disciples would fast, but it does seem to have a broader context of his return to Heaven and leaving the earth physically after his resurrection. In the book of

Acts, we clearly see the early church still practicing fasting, so Jesus must not have only intended this to mean his three days in a grave. Acts 13:2 says, **2 While they were worshiping the Lord and fasting, the Holy Spirit said, “Set apart for me Barnabas and Saul for the work to which I have called them.”** So, if, in Christ, the law is fulfilled there is no need for the fasting that came from longing for the Messiah and redemption of sins, but Jesus says his followers will fast at some point, then how do we reconcile those ideas? Those ideas are reconciled in the final illustrations Jesus gives in this passage using a cloth and a wineskin.

In verse 21 he talks about not putting a new piece of unshrunk cloth on an old garment to patch it up. The reason is that it would shrink as it is washed and actually pull against the cloth it was patching and tear an even bigger hole in the fabric. Then he uses the illustration of the wine and wineskin in verse 22. He talks about an old wineskin. This would have been a leather container, basically a bag, used to keep wine in to be transported or stored. The problem is that once they were empty and left to dry out and not used for a long time, they really could not be reused, because they would get hard and somewhat brittle. They would start as soft leather that had some stretch to it in order to fill it with wine, but an old brittle wineskin would crack not stretch if you tried to fill it with wine which would push the sides of it open again as it was filled. You would end up wasting the wine. Jesus is answering the question of fasting by saying that he is like the new cloth and the new wine. You don't take what is new and just add it to the old system or fit the old system in around it. Jesus brings something completely new into this world by fulfilling the law that required fasting!

The question is really not just about fasting, but we do have to address it here for Christians. Should we fast? It is not commanded in the New Testament, but Jesus seems to indicate that at various times once he leaves the earth, we can and should. But there should be a difference to our fasting that the Pharisees who held that legalistic standard over people's heads could never grasp. John Piper in his book on fasting called, **“A hunger for God”** says, **The Great central decisive act of salvation for us today is past not future. And on the basis of that past work of the bridegroom nothing can ever be the same again. The lamb is slain. The blood is shed. The punishment of our sins is executed. Death is defeated. The spirit is sent. The wine is new. And the old fasting mindset is simply not adequate.** But we all know that while this is the spiritual reality that Jesus has come and all things are new that we live with the tension of this has already happened, but in this fallen world we don't experience it fully. We live in the reality of “already, but not yet” which we have talked about before. This is why we fast. Because we have a longing to actually experience the presence of the bridegroom as the followers of Christ in Mark walking with Jesus were experiencing. We know that we do not gain favor with God as the Pharisees thought by fasting. We know that in Christ our salvation is complete. But we want to experience more of Jesus, the new wine, filling us up as his wineskins. Again, Piper says, **“As an act of faith, Christian fasting is an expression of dissatisfied contentment in the all-sufficiency of Christ. It is an expression of secure and happy longing for the all-satisfying fullness of Christ...It is a hunger for God awakened by the taste of God freely given in the gospel.”** So, yes as Christians there should be times we should fast out of a heart that desires to forsake something that is good – food, for something that is better, God.

But there is an even bigger question being addressed here that the Pharisees could not see. The question is whether those hearing the gospel would forsake their religious understandings and the rules they had created for themselves and their society and join the wedding celebration with the bridegroom. You couldn't do that by just adding Jesus to what and who you already are. You can't remain as the old garment or the old wineskin. You have to be transformed and renewed by Jesus Christ. [2Corinthians 5:21](#) says, [17 Therefore, if anyone is in Christ, he is a new creation. The old has passed away; behold, the new has come.](#) As a new creation in Christ Jesus, like the expanding fermentation of wine, he fills us by his Holy Spirit in order to make us into the bride he wants us to be as part of his church, the bride of Christ.

Some of you like the Pharisees are trying to do something to make yourself more appealing to God. You work at living a moral life. You may be even systematically doing some religious exercises. You may want Jesus, but you want to add him to who you already are. The problem is who we are is a sinner who has completely failed to glorify God with any of our actions. This was the problem with the Pharisees. They thought because of their actions, they were godly and righteous and not sinners. But that was far from the truth. All of us need to be made into a new creation. We need to be regenerated in order to truly follow Christ and accept him. We need to be a new cloth and a new wineskin. That only comes through repentance of sin and throwing yourself on the mercy of Jesus Christ, trusting that he alone can pay for your sin and provide forgiveness because of his death on the cross. That is why we celebrate the Lord's Supper. Each time we come to this table we remind ourselves of who we are. We are sinners who deserved to die as punishment for our sins, but Christ died for us. His body was broken and his blood shed in order for us to be made new in Jesus Christ. If you have repented of your sin and accepted Jesus Christ as Lord and Savior and been obedient by being baptized, then I invite you to join us in this communion meal today. If you have not accepted Jesus or been baptized, then I would ask you to not partake. Parents, you teach your children the importance of this meal by not allowing them to participate if they are not ready. After I pray, the Deacons will serve the bread and juice from the 4 corners of the room and we will eat and drink together as we remember the sacrifice of our Lord Jesus Christ. Let's pray.